

# 後期臨床研修プログラム

## 【眼科】

### ■プログラムの管理・運営

プライマリ・ケア医の養成をミニマム・リクワイアメントとする。眼科研修中に、病棟カンファレンス、総合カンファレンスに参加し、患者アセスメント・問題解決・治療法選択を学ばせる。また、眼科研修医を対象とした教育セッションを行う。眼科に配属された研修医に対して、臨床経験4年以上の上級医が各々組み合わせとなり、入院診療および外来診療について直接指導を行う。少なくとも1名の指導医がこれらの研修医の指導にあたり、診療計画の推進にあたる。

### ■一般目標

眼科初期臨床研修の中で、一般臨床医として必要な眼科疾患、眼科救急疾患を経験し、基本的な眼科臨床能力を修得する。

### ■行動目標

- |             |           |            |            |
|-------------|-----------|------------|------------|
| (1) 患者－医師関係 | (2) チーム医療 | (3) 問題対応能力 | (4) 安全管理   |
| (5) 医療面接    | (6) 症例提示  | (7) 診療計画   | (8) 医療の社会性 |

### ■経験目標

#### A. 基本的な診察法

- ・眼科の基本的な診察法ができ、記載できる。
- ・眼科救急疾患に関して、緊急性を正しく評価できる。

#### B. 以下の項目について自分で検査ができる。

- ・屈折検査（視力検査、レフラクトメーター）を理解し、行うことができる。
- ・細隙灯顕微鏡検査を理解し、行うことができる。
- ・眼底検査（直像鏡、双眼倒像鏡）を理解し、行うことができる。

#### C. 以下の検査の選択・指示ができ、結果を解釈することができる。

- ・眼鏡・コンタクトレンズ処方
- ・視野検査（静的量的視野検査、動的量的視野検査）
- ・色覚検査
- ・眼圧検査
- ・斜視弱視検査（プリズムカバーテスト、シノプトフォア）および両眼視検査
- ・眼底撮影検査および蛍光眼底造影
- ・電気生理検査（ERG、VEP、EOG）
- ・超音波検査

#### D. 以下の基本的治療行為を自らできる。

- ・点眼薬処方
- ・点眼
- ・眼科手術の特殊性を理解し、助手として白内障手術を経験する。

#### E. 経験すべき疾患

以下の疾患を経験し、正しい診断および治療法を理解する。

- |                     |              |
|---------------------|--------------|
| (1) 結膜炎（感染症、アレルギー性） | (2) 麦粒腫、霰粒腫  |
| (3) ドライアイ           | (4) 角膜潰瘍     |
| (5) 白内障             | (6) 緑内障      |
| (7) 網膜剥離            | (8) 糖尿病網膜症   |
| (9) 斜視              | (10) 視神経炎    |
| (11) ぶどう膜炎          | (12) 網膜色素変性症 |

#### F. 以下の件について専門家にコンサルテーションができる。

- ・様々な疾患の手術適応
- ・放射線治療

### ■救急外来



眼科救急疾患については、他科当直医からの要請により随時診療している。  
救急医学（眼科以外）については、外科当直医として月2日程度業務に従事する。

## ■研修医の評価

---

1. 外来、病棟カンファレンス  
研修医の診療した症例につき、カルテを指導医がチェック、診察所見、アセスメント、治療計画につき評価、指導する。
2. 手術  
術中、指導医は助手として指導。術後はビデオにて手技の評価、検討する。
3. 研修医修了試験  
研修内容に関する筆記、口頭試験を研修医2年目3月に、慶應義塾大学眼科医局にて行う。

## ■今後の理想

---

外来、手術の患者さんは豊富に存在するので、眼科医の増員、外来診察室、病床、手術枠の拡大が望まれる。